

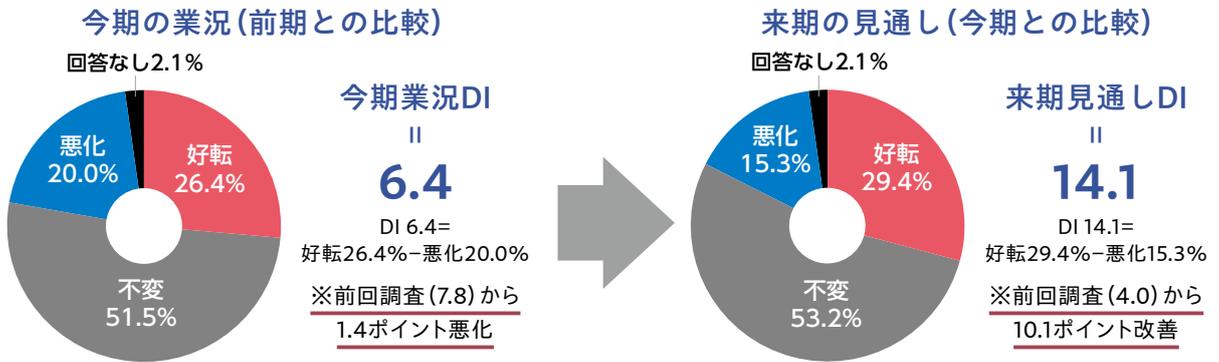
世田谷区における中小企業の景況

世田谷区の事業者様を対象に、賃上げへの対応状況に関する付帯調査を実施しました。詳細は右の二次元コードからご覧ください。



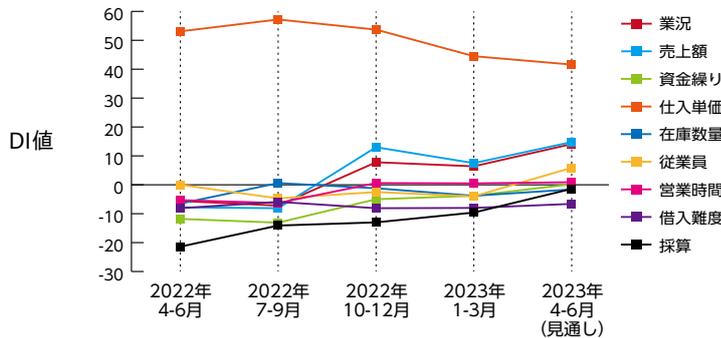
業況

今期(2023年1~3月期実績)の業況DIは、+6.4ポイントで前期から▲1.4ポイント悪化した。
来期の業況見通しDIは+14.1ポイントとなり、前回調査より+10.1ポイント改善する見通し。



主な指標別の傾向

今期は、採算▲9.6(前期比+3.4)、資金繰り▲3.8(同+1.2)、借入難度▲8.0(同+0.1)など3指標でポイントが増加したが、それ以外は減少した。最も減少したのは、仕入単価+44.5(前期比▲9.3)で、次いで売上額+7.5(同▲5.5)である。来期見通しでは従業員+5.9(当期比+9.9)、採算▲1.4(同+8.2)、売上額+14.8(同+7.3)など8指標でポイントが増加し改善が見込まれる。



業況	▲5.6	▲7.2	7.8	6.4	14.1
売上額	▲7.8	▲8.1	13.0	7.5	14.8
資金繰り	▲11.8	▲13.1	▲5.0	▲3.8	0.2
仕入単価	53.1	57.2	53.7	44.5	41.6
在庫数量	▲6.5	0.6	▲1.2	▲3.8	▲1.6
従業員	0.0	▲4.7	▲2.5	▲4.0	5.9
営業時間	▲5.3	▲6.3	0.6	0.5	0.9
借入難度	▲8.1	▲5.9	▲8.1	▲8.0	▲6.6
採算	▲21.4	▲14.1	▲13.0	▲9.6	▲1.4
	2022年 4-6月	2022年 7-9月	2022年 10-12月	2023年 1-3月	2023年 4-6月 (見通し)

主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目：業況(好転⇨悪化)、売上額(増加⇨減少)、資金繰り(好転⇨悪化)、仕入単価(上昇⇨低下)、在庫数量(増加⇨減少)、従業員(増加⇨減少)、営業時間(延長⇨短縮)、借入難度(容易⇨困難)、採算(好転⇨悪化)

	業況	前年 同期比	売上額	前年 同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	6.4	5.9	7.5	11.3	▲3.8	44.5	▲3.8	▲4.0	0.5	▲8.0	▲9.6
製造業	2.3	4.5	11.4	15.9	▲13.6	59.1	13.6	4.5	4.5	▲2.3	▲9.1
建設業	▲8.0	▲9.2	▲4.6	▲3.4	▲2.3	54.0	▲8.0	1.1	▲1.1	3.4	▲25.3
不動産業	15.9	18.2	13.6	13.6	11.4	22.7	▲9.1	2.3	▲2.3	▲2.3	11.4
卸売業	▲4.9	▲2.4	▲7.3	2.4	▲7.3	53.7	0.0	▲7.3	▲2.4	▲7.3	▲26.8
小売業	21.3	28.0	21.3	30.7	▲1.3	62.7	▲1.3	▲12.0	▲1.3	▲17.3	▲4.0
サービス業	9.0	2.2	9.0	10.4	▲6.7	27.6	▲7.5	▲6.7	3.0	▲14.2	▲4.5

主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	14.1	14.8	0.2	41.6	▲1.6	5.9	0.9	▲6.6	▲1.4
製造業	22.7	29.5	4.5	54.5	2.3	6.8	2.3	▲2.3	2.3
建設業	▲6.9	▲1.1	▲8.0	48.3	▲6.9	4.6	▲2.3	1.1	▲26.4
不動産業	2.3	▲6.8	▲2.3	15.9	9.1	9.1	4.5	▲6.8	4.5
卸売業	9.8	9.8	0.0	48.8	▲7.3	7.3	▲2.4	▲7.3	4.9
小売業	30.7	28.0	2.7	57.3	▲4.0	0.0	▲2.7	▲12.0	▲9.3
サービス業	20.9	21.6	3.7	30.6	0.0	7.6	4.5	▲9.7	14.2

概況：〈DI(Diffusion Index)とは…〉DI(%)=「良い」「増加」等企業割合-「悪い」「減少」等企業割合

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」とする企業が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。